


Workflow Strategy

abandons cart

1 hr. delay

業務改善支援

～今ある業務を根本から見直し、生産性の向上に寄与する行動観察コンサルティング～

 オージス絵研

No purchase



← add
Promo

大規模インフラと顧客基盤を支えるIT

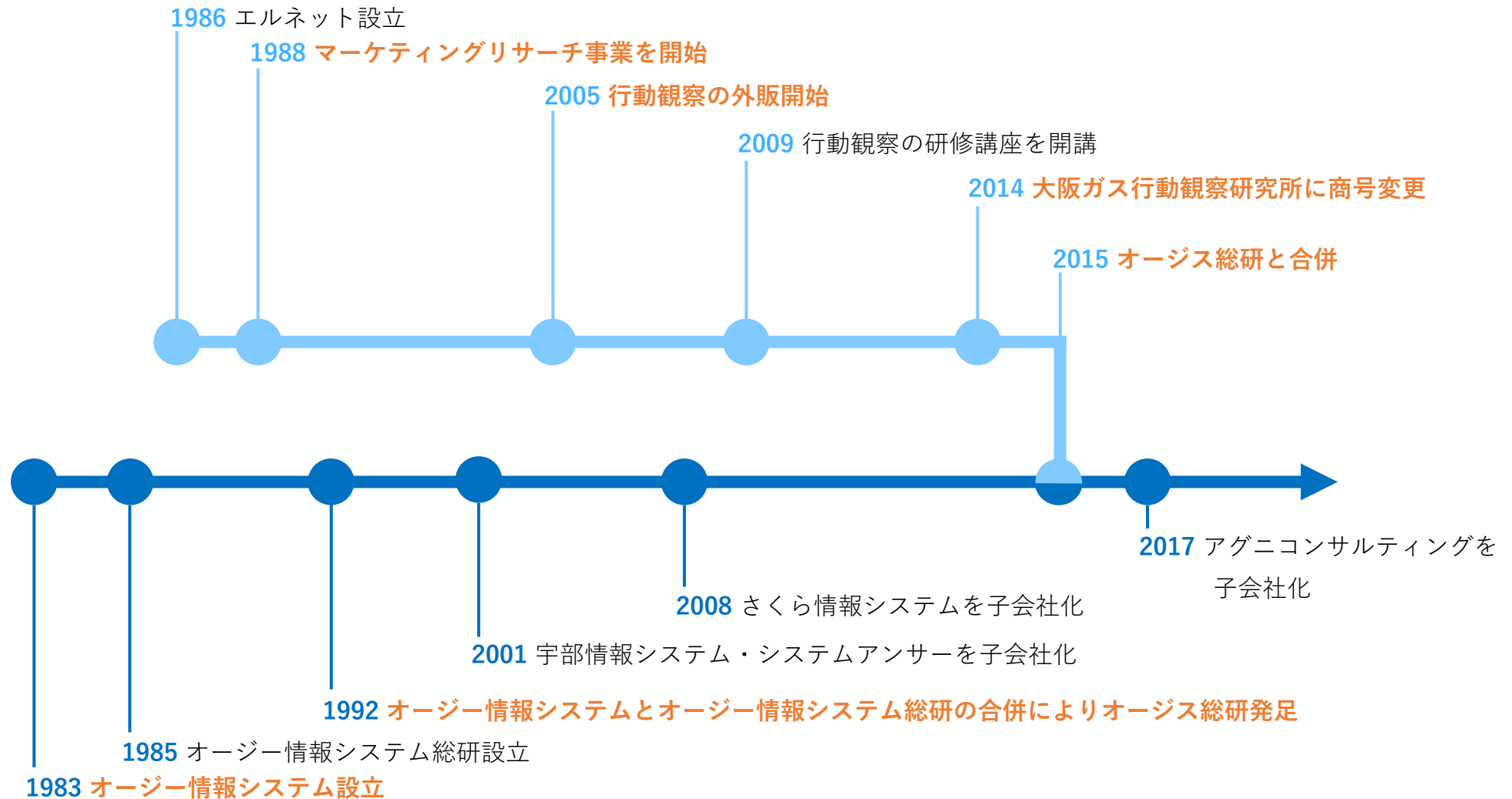
+

行動観察とマーケティングリサーチの実績

企業名
株式会社オージス総研

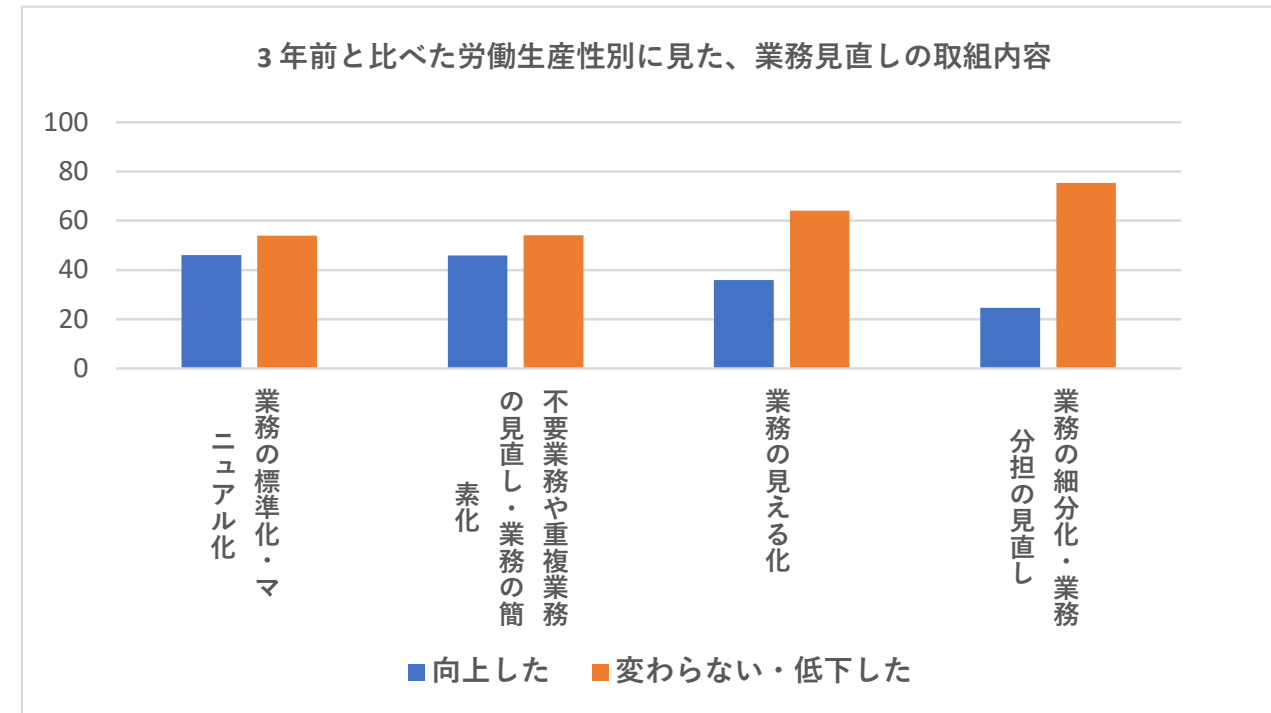
設立
1983年6月29日

代表
吉村 和彦



構造的な人手不足が生産性の低下を招いている

- 生産年齢人口の減少等による構造的な人手不足
- 人手不足対応に向けて生産性向上に取り組む必要性あり
- 生産性を向上させるには、業務の見直しが鍵
- 各社、業務の見直しによる生産性向上効果は一定程度見られるが、効果がなかったり、逆に生産性が低下した企業の方が多い



2018年版「中小企業白書 第2部第2章」(中小企業庁)
 (https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/H30/PDF/h30_pdf_mokujityuu.htm)
 を加工して作成

生産性向上の取り組みがうまくいかない3つの要因



ツールや施策「ありき」で
手段が目的化しがち

- 現場メンバーが推す改善案を過小評価し、声の大きい人の言葉を過大評価されて進んでいく
- 意思決定後、現場の業務とフィットせず、現場負荷が増大していることが判明する



それぞれの現場の現状把握が
難しく、打ち手が定まらない

- 属人思考によって本質的な現状が把握しにくい
- 連携する部門間で、それぞれの立場での価値観の違い、使用する言葉の意味の違いがあり議論がずれ違う



経営/現場/企画管理部門それぞれの課題認識にズレがある

- 経営層は生産性指標はモニタリングしてはいるが、常にQCDを全方位で向上させる号令を出す
- 新しい手法を試みるリソースを捻出できず、現場では昔からのやり方に縛られている。またノウハウや知識が「人」依存になり共有できていない
- 人や教育を担当する企画管理部門が、現場がどのように/何のためにツール導入や施策を行っているのかわからない

本資料にご興味をお持ちいただけましたら、
フルバージョンのダウンロードをお申し込みください。
一度お申し込みいただくと、行動観察に関連した掲載資料を
すべてダウンロードいただけます。

お申し込み